

# 宮崎県総合博物館 第2期中期運営ビジョン評価表（平成30年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った

外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

## (1) 調査研究

※内部評価は、総合博物館による評価

※外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①調査研究方針・計画	達成率	100%	56%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸課職員が個別に研究テーマを設定して行う個別（テーマ）研究と、全部門合同で行う小丸川水系の総合調査研究とがある。一部の研究では成果を研究紀要に公表することができたが、ほとんどの部門で他の業務の都合等により調査研究の出張等を組めない状況があり、個別研究・小丸川調査の両立も困難であった。</li> <li>・次年度は、これまで個別研究と水系別総合調査研究を並行して計画してきたものを部門内で統合し、調査研究の効率化を図る。さらに、各部門で毎月1回以上の調査研究日を設定し、業務の調整を行って調査研究に取り組み、実施状況を確認する。</li> </ul>	1		<p>①館職員の研究には、個別研究と全部門合同で行う総合調査研究があり、前年度の総合調査研究は小丸川水系の総合調査であった由。</p> <p>「他の業務の都合等により調査研究の出張等を組めない、個別研究・小丸川調査（総合調査研究）の両立も困難・・・」と状況を分析し、総合評価は2としている。</p> <p>平成28年には総合調査の大成『県南地域調査報告書』を著しており、小丸川水系の総合調査も県南地域と同様の報告ができる予定（平成30年度の研究紀要に2編の小丸川水系に関連する報告が掲載されている）であったのだろう。「他の業務の都合」で調査が出来なかったとあるが、単純に解釈すると、計画当初の頃には考えられないような業務が増えたのか、十分に計画が練られていなかったのか、旅費計上がなされていなかったのか、などと考える。</p> <p>個別研究は、学芸課職員全員が研究紀要に発表していることから、前記状況を考慮するに、勤務を要しない日にプライベートで調査研修しているのではないかと推察するが、総合調査研究・個別研究併せて検討する必要があるのではないかとと思う。</p>	
②調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	研究紀要1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月に12論文・研究ノートからなる「研究紀要第39輯」を発行できた。本県の自然史、歴史等の解明に一定の貢献が期待できる。</li> <li>・次年度の研究紀要では、水系別総合調査研究（小丸川水系）の成果報告を中心に掲載する予定である。</li> </ul>	3	2	<p>②業務の都合等で調査研究の出張が組めない状況があるようだ。目標値（計画・方針）が高いかわからないが、重要な部分でもある。何とか研究日を確保して欲しい。内容的にも充実しているので、その報告を是非県民に今後とも還元してもらいたいと思っている。</p> <p>③小丸川水系調査の成果を2本、調査研究報告会および研究紀要にて発表されたことは良かった。他の業務のために調査研究が進まなかったのは残念である。貴館の基本理念のひとつが「研究を大切にす博物館」であるだけに、今後は業務を調整され研究が進展されることを希望する。</p> <p>④達成目標は理想ではなく、実現可能なものに設定する必要がある、そのためには業務計画をさらに具体的で無理のないものにしなければならないのではないかと。成果の公表については、地道な調査研究を着実にやっていることがわかり、十分とは言えない状況で努力されている。</p> <p>⑤業務が多いということは理解するが、調査研究は、博物館の根幹の業務であり、学芸課職員の質の向上にもつながる重要な業務である。次年度の評価の向上に向けて、真剣に取り組んで欲しい。</p> <p>⑥「研究紀要第39輯」に学芸課職員全員が論文・研究ノートを執筆したとのこと、他の業務の中で大変だったと思う。それ故、学芸課職員による個別研究と合同研究（小丸川流域調査）の両立困難を克服するための施策を実施すること、上手く行くことを願う。</p> <p>⑦調査研究方針・計画において、小丸川水系の総合調査と個別調査が両立できなかった点は、今後の課題となった。一方、調査研究成果公表は、研究の紀要の発刊、調査研究報告会は継続している点と、方針・計画において次年度の方針を具体的に内部評価している事を考慮して、両者を総合するとほぼ期待どおりの評価としたい。</p> <p>⑧半日ほど、調査研究報告会に参加してみた。各人の発表時間は15分と短かったが、どの発表も興味深く勉強になり、館員同士切磋琢磨している様子がかげえた。この報告会は残念ながら一般公開されていないが、館の肝煎りで開かれている県内研究団体（当館含む）の発表会は公開されており、切磋琢磨の輪を他の研究団体や一般へも広げていることは評価できる。</p> <p>⑨宮崎県史にとって有益な論文が掲載されている。</p>	2
	調査研究報告会	年1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月に職員11名が調査研究の結果や収蔵資料に関する内容、アウトリーチ活動に関する内容についての報告を行った。館内の職員研修として実施し、職員のほか博物館協議会委員や県立の他機関、県内の他の文化施設職員にも参加いただいた。</li> </ul>	3			

(2) 収集・保存

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①収集・管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	4,906点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の収集、図書・文献の収集、収集資料の整理・登録、デジタルミュージアム登録数については、年平均の目標値を上回ったが、デジタルデータの収集は下回った。</li> <li>・内容については、動物部門ではハネカクシ類の乾燥標本、宮崎海洋高等学校の長期乗船実習時に捕獲された個体から作成されたサケガシラ骨格標本、植物部門では本県で継続して発生することはないイカタケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町鞍岡祇園山で採集した床板サンゴ類化石、歴史部門では戦時中の生々しい記憶を伝える千人針、民俗部門では昭和末期から平成初期に撮影された椎葉神楽等映像DVDなど、今後活用できる価値の高い資料を収集することができた。</li> <li>・資料の収集数、資料の整理・登録数については、すでに第2期の目標値は上回っている。今後も引き続き資料の所在情報の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組むとともに、未登録資料の整理・登録を行う。</li> </ul>	4	3	<p>①資料の収集の目標値、その内容についても大変大きな成果を挙げられたのは、各方面との連携等の不断の努力と博物館に対する信頼の高さと思われる。</p> <p>②保存のための取り組みが着実に実施できていることは良かった。</p> <p>資料収集は点数として順調で喜ばしいが、その管理・保管に課題はないのだろうか。特に貴館の設備等が最新ではないだけに心配している。</p> <p>③資料の収集、図書・文献の収集、収集資料の整理・登録など、地道な業務が充実して実施されているとのこと、折角だから、図書や文献についてはホームページで分野別に検索できるようなサービスを提供したらどうか。(宮崎県立図書館と連携して図書検索システムで検索できるようにしたほうがよいかも知れない。その場合は、ホームページでその旨のお知らせを載せたらどうか)</p> <p>④資料の収集・管理において、今後活用できる価値の高い資料多く収集できた点は大きく評価したい。保存は、十分に確保できていると思われる。月に一度のチェック体制も確保されている。等々を考慮して十分に評価できる。</p> <p>⑤宮崎県史にとって有益な物品の所蔵が紹介されている。</p>	3
	図書・文献の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,124点					
	デジタルデータ(写真・映像等)の収集	5,000点 (年平均1,000点)	646点					
	収集資料の整理・登録	4,000点 (年平均800点)	2,440点					
	デジタル・ミュージアム登録数	1,000点 (年平均200点)	231点					
	(合計)	(年平均3,500点)	9,347点					
②保存	燻蒸	年1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館では平成23年度からIPM(総合的虫菌害管理)の考えを取り入れた資料保存に取り組んでいる。平成30年度も全職員によるIPMウォッチング、学芸課担当職員によるモニタリング調査を計画どおり実施することができた。</li> <li>・月に一度、適切な環境を維持するために学芸課職員による収蔵庫の目視・清掃を実施した。</li> <li>・9月の燻蒸期間には、収蔵庫内の燻蒸及び展示室内の簡易燻蒸(殺虫等処理)を計画どおり実施した。その際、常設展示室内の虫菌害発生のおそれがある資料については、収蔵庫に移動して燻蒸し、殺虫・殺カビ処理を行った。なお、燻蒸期間中は立ち入り禁止区域を設定し、館外でのガス漏れ計測を行うなどの万全の安全対策を行った。</li> </ul>	3			
	簡易燻蒸(殺虫等処理)	年1回	1回					
	IPMウォッチング	年12回	12回					

(3) 展示

項目	評価指標		30年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①入館者数	本館入館者数	80万人 (年平均16万人)	136,134人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館の入館者数については、例年10万人程度で推移している。平成30年度は「むしムシ虫展」が好評で約5万人の入場者があり、年間で13万人を超える入館者があったが、目標値である16万人を超えることはできなかった。現在、常設展示室における資料入替え、1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催、展示解説員による展示解説や団体案内、催し物の開催などのサービスの向上、エントランスホールでの合唱、書道パフォーマンスの開催など、従前の催しの改善や新たな取組みを工夫しており、さまざまな機会をとらえて情報発信を行っている。今後も引き続き、特別展をはじめ魅力ある企画を展開するとともに、学校等への訪問を強化していく。</li> <li>・「どこでも博物館」事業や野外講座などのアウトリーチ活動等を通じて、県民に総合博物館の展示や諸活動を周知するなど、本館の有効な活用と集客力の強化を図っていく。</li> <li>・今後、増えることが予想される外国人観光客に対応するため、多言語音声システムや無料Wi-Fiの整備など、インバウンド対応を進めていく必要がある。</li> </ul>	2	3	<p>①入館者については、本館での目標値には到達できなかったものの、昨年度よりさらに2.5万人ほど増加している。民家園も微増している。情報発信等の取り組みを継続したい。常設展での展示替え等の工夫改善による努力にも感謝したい。とにかく足を運んでもらえれば・・・と思う。特別展でのアンケートでの満足度が高いのは、素直に喜びたい。(ロビー展での高校野球展も良い企画だと思いました。宮崎県は今やスポーツキャンプ地としても関係選手等についても国際的になりつつあります。)</p> <p>②入館者数は目標を少し下回ったが、例年より多かったので良いと思う。民家園は補修も済み、建物を見るばかりでなく、講座・神楽・春まつり等の事業を組み入れての努力が、5万人以上の入園者で、高く評価できる。</p> <p>③・常設展・神楽のコーナー 神楽は宮崎の宝。県も近年その魅力の発信に力を入れている。民俗展示のなかでも神楽のコーナーはspecialであってほしい。神楽シアターの映像はよくまとまっているが、全体としては神楽の入口の紹介にとどまっている。宮崎の神楽の特徴、面・採り物・衣装の実物、御神屋の設えの意味など、さらに掘り下げる余地がある。例えば、宮崎の神楽をテーマとした特別展を開催し、その成果を生かす形でコーナーの充実を図ることなども考えられる。特別展には、県や研究者、各地の神楽保存会が喜んで協力してくれ、宮崎中の神楽好きが押し寄せるに違いない。館に人を得て、"やるなら今でしょ"。</p> <p>④・マスコットキャラクター・むーちゃん 「研究紀要」第38輯に掲載された3Dモデル製作の報告を読むまで、当館にマスコットキャラクターが存在することに気づいていなかった。まさに、「むーちゃんはどこだ?」。もっと活用しなければもったいないと思っていたところ、2019年7月に館を訪れ、「むーちゃんをさがせ!」の企画が展開され、家族で参加している来館者を目撃。化石展では、彩に乏しい化石の解説プレートに、鮮やかなオレンジ色のむーちゃんがあしらわれ、第二の展示解説員を務めており、むーちゃん存在を館内のあちこちで確認できた。さらなる活躍を期待している。</p>	3
	民家園入園者数	25万人 (年平均5万人)	50,714人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国重要有形民俗文化財・県指定文化財を活用した民家園講座をはじめ、神楽公演、民家園春まつりなどの各種事業が好評で、入園者数が目標値の5万人を上回ることができた。</li> <li>・平成30年度より、新たに民間主体による民家園利用事業制度をスタートさせたところである。今後とも文化財の保護に十分注意するとともに、県民に広く周知されるための利活用を一層進めていく必要がある。</li> </ul>	3			
②常設展	展示替等回数	年5回	19回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然史展示室では、地質部門が鉱物(カンラン石・ハーキマー水晶等)、動物部門がアカショウビンの展示替えを、歴史展示室ではロビーケースを使い、日本刀や鐔の展示替えを、民俗展示室では佐土原人形の展示替えを行うなど、収蔵資料の活用に努めた。</li> </ul>	4	3	<p>⑤特別展「むしムシ虫展」 カブトムシやクワガタなど大型甲虫は幼児や児童たちが最も好む昆虫で、夏休み期間中に開催されたのは時宜にかなった催しであった。展示会場の一部を区切ったエリアにヘラクレスオオカブトなど外国産の生きた成虫の展示があり、普段目にする筈のない大型昆虫に、子どもたちは興奮気味であった。館外に逃げ出す恐れについて監視員に問うと、数の確認を適宜行う、閉館後は業者が持ち帰るとのことだったので、納得できた。</p> <p>ただ、解説文は敬体で一見平易な表現であったが、文章に使われた用語は専門的、難しい漢字も混じっていて、子どもたちには難解な解説文と感じた。特別展に合わせて作製されたフィールドガイドブックは、カラーで内容もよく、野外活動に大いに役立つのではないかと、思った。この冊子にも専門用語が多く見られ、展示解説文と同様の感想を持った。</p> <p>⑥「むしムシ虫展」は夏休みをはさんでの開催で、子どもたちがたくさん入場して大変良かったと思う。関連行事も子どもたちの興味をそそるものばかりですばらしかった。これからも魅力ある展示をお願いしたい。</p> <p>⑦・「日向国の明治維新」展 貴重な実物資料により、宮崎県の幕末・維新史が具体的に表現され、見応えがあった。「研究紀要」第39輯の当展担当者による報告にもあるように、来館者の立場に立ちつつ見せたいところを効果的に見せようとする工夫がなされていた点は高く評価できる。章タイトルで外部(高校生)を巻き込もうとの試みも意外性があってよかった。</p> <p>⑧・「世界ネコ歩き」展・野外展示 たまたま神宮の西参道を歩いていてチーターの大パネルに出会ったときは、びっくり。見慣れた空間が一変し、新鮮な体験だった。展示会の導入・余韻や宣伝の効果もあり、たまにはこんなドッキリの仕掛けも楽しい。</p> <p>⑨満足できます。</p>	3
③特別展	実施回数	年3回	<p>主催事業 3回 貸館事業 1回</p>	3	<p>⑩常設展・特別展・ロビー展いずれも、目標値を上回って、高く評価できる。</p>			
④ロビー展	実施回数	年12回	16回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントランス・ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら全16回実施した。内訳は、特別展開連展示2件、各部門の企画展示9件、広報推進委員会による企画(博物館ひなまつり)1件、博物館友の会の企画展示1件、県の他機関・学校の展示3件であった。</li> </ul>	4			

(4) 教育普及

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見
①学校教育支援	学校受入校数	年200校	229校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校受け入れ校数は昨年度の225校とほぼ同数で昨年に引き続き目標値を今年も達成できた。資料貸出し校数、授業支援、職場体験受け入れ、職員研修受け入れ数は目標を達成できなかった。</li> <li>・授業支援は昨年度より減少したが、宮崎北高等学校のサイエンス科への支援、など複数日数実施した学校もあり、支援回数は12回であった。</li> <li>・今後も計画的に学校教育支援に取り組むとともに、校長会や職員研修会などの機会を通じて、博物館の学校支援のメニューや有効性について説明し、周知を図る。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業支援について。小・中・高、特別支援学校における教科や総合的な探求の時間等、具体的な活用の方法について紹介し、周知できるような機会があるとよいのではと思う。</li> <li>②学校教育の支援は、よくされていると思う。私も見に行ったとき、展示物は興味引かれるものだったし、常設展は毎回楽しみである。</li> <li>*いつも知的刺激をありがとうございます。</li> <li>③どの項目も「目標値を達成できた」「多くの来場者があった」「関係機関との連携が図れた」などの内部評価を元に評価を行った。学芸員の方や博物館職員(展示解説員)の児童・生徒対応(説明)も、学年や発達段階に応じた対応でわかりやすいと思う。</li> <li>④(学校教育支援の)目標値は下回ったとのことだが、同じ学校に対しての支援が複数回実施など、手厚い支援が行えている点は評価に値すると思う。</li> <li>⑤満足できる。</li> </ul>	3
	資料貸出し	年10校	4校				
	授業支援	年10校	6校				
	職場体験受け入れ	年5校	4校				
	職員研修受け入れ	年5校	2校				
②展示解説	実施人数	年10,000人	10,042人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示解説を受けた人数は目標人数を達成することができた。展示解説を受けた方々の個人アンケートによると「満足した」「やや満足した」の合計が97.7%で、満足度が高かった。今後も来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味や関心を高めるような解説を工夫し、多くの来館者に展示解説を実施していく。</li> </ul>	3	⑥展示に関する解説については、あると理解度がかなり変わるように思う。満足度の高い項目なので今後も興味の湧く解説を期待する。	
③博物館講座等	主催講座(地域講座含む)	年30回	40回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催講座は、普及講座(22回)と特別展関連講座(8回)、民家園伝統文化体験講座(7回)、どこでも博物館(3回)であり、地域講座数ともに目標をクリアすることができた。受講者数も目標値を大きく上回ることができた。</li> <li>・今後も興味ある充実した内容の講座を企画すると共に広報活動の工夫に力を入れながら継続していきたい。</li> </ul>	4	⑦受講者数が大幅に増加したことは大変素晴らしいと思う。大幅増加の背景を分析し、今後とも興味のある講座を期待する。	
	地域講座	年10回	10回				
	受講者数	年1,500人	3,148人				
④民家園の活用	民家園まつり	年1回	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神楽公演は昨年度より回数が増え、10月西米良、11月高千穂、2月生目の3回神実施した。3月には民家園春まつりを開催し、それぞれ多くの来場者があった。</li> <li>・毎週第3土曜日に開催している昔話公演は、新たな団体が加わるなど演目が充実し、目標の10回を開催でき、幅広い年代層に楽しんでいただいた。</li> <li>・その他の催事として、福祉施設と共催で風車フェスタ(10月)、愛好会と共催でレコードコンサート(11月)のほか、民家園ボランティアによる昔のくらし体験(5回)を実施することができた。</li> <li>・今年度は民家園利用事業制度をスタートさせた。また、新たな媒体を使ってボランティア募集を行ったのに加え、ボランティアとの意見交換会を通じて意識の向上を図るとともに、運用面の改善に取り組むことができた。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧民家園を活用した神楽公演は、西米良村村所、高千穂町上田原、宮崎市生目の3団体の出演で、例年より多い。村所と生目は境内など屋外で奉納されるので、民家園の庭、高千穂神楽は民家を神楽宿としていることから上田原は椎葉の民家で奉納され、現地夜神楽の雰囲気を感じることができたと思われる。神楽公演が行われた月は入園者が増えていることから、この事業が県民に知られるようになっていであろう。県事業は3年で見直されるが、教育分野は継続が大事である。</li> <li>⑨民家園の活用の仕方は、とても興味深く感じました。民陶・民芸・茶道具等の展示会も企画してもらえると、インバウンドの集客にもつながるのではないかと。</li> <li>⑩神楽公演、昔話公演は是非とも次世代に伝えていってほしい項目である。また、昔の暮らし体験等で若い世代の「生きる力」を育成するヒントを頂ける機会があることは大変素晴らしいと思う。ぜひ、このような活動の周知を図っていただきたい。</li> <li>⑪宮崎県に限らず、民家園ほど民俗行事や民俗芸能の舞台としてふさわしい空間はない。ホールや舞台とは一味違った趣がある。当館の「民家園民俗文化体験事業」の一環として行われる神楽公演は、例になく祭場の設えが本格的で、座敷や庭とのマッチングが素晴らしい。撤収の風景も印象的だが、忙しく働く人びとのなかに館員の姿を見出すことができる。</li> </ul>	
	伝統芸能公演	年1回	3回				
	宮崎の昔話公演	年10回	10回				
	その他の催事	年6回	7回				
⑤関係機関との連携	職員の派遣・招聘	年20件	152件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物、地質、考古、歴史、民俗、教育普及、資料保存など様々な分野の研究会や会議、調査等に講師や委員として職員を10件20回派遣し、関係機関等の職員の招聘が20件あった。資料貸出し及び資料借用または展覧会等で協力を得た関係機関は83件、視察・調査等で来館された関係機関は19件あり、多方面の関係機関との連携を図ることができた。</li> </ul>	4		
	資料の貸し借り						
	研究会への参画						
	共催事業等						

⑥博物館と福祉施設の連携	施設受入件数	年200件	142件	・福祉施設の来館は、展示解説員が主体となって認知症高齢者を対象に実施している「博物館で思い出を語ろう！」事業を多団体期（5・8・10・11月）に実施しなかったため、目標を下回った。 ・今後は、福祉施設におけるテーマ回想法だけでなく、福祉施設や高齢者団体におけるコース回想法での活用を広く広報し、様々な施設や団体のニーズをふまえた事業展開を図っていく。	2	⑫福祉施設との連携について、福祉サイドとしては大変ありがたい取り組みであると認識しており、より一層の取り組みの強化を要望する。 特に、地域回想法事業の実施は、認知症の高齢者が増加する中、機を捉えた取り組みである。本事業では、認知症改善に係る様々なデータを得ることができるため、昨年度は目標を下回る実績であったことも踏まえ、今後は関係者連携のもと、更なる事業の推進を図って欲しい。	
⑦レファレンス対応	相談件数	年1,000件	842件	・一般552件、マスコミ139件、公共機関64件、学校41件等からの相談が計842件あった。相談件数は昨年度より75件減り、目標値に届かなかった。 ・レファレンスサービスはホームページなどを通じて周知を図り、問い合わせには適切に対応していきたい。	2		
⑧研究発表会の開催	研究発表会	年1回	1回	・県内研究団体の発表会を3月に開催し、自然科学系の10団体が報告を行った。参加者は昨年度と同数の69人であった。本年度が9回目の開催となり、自然科学に関する情報発信の場として定着し、一定の役割を果たしている。	3		⑬研究発表会の開催は宮崎県の自然科学の向上に博物館が牽引役を果たす大きな功績と評価する。
⑨博物館友の会との連携	講師派遣 (博物館→友の会)	年5回	講師派遣1回	・学芸課職員の講師派遣を2回計画したが、天候不良で計1回の実施であった。 ・また、友の会会員による博物館講座支援は、霧島山の植物観察など4回あった。 ・友の会の会員による写真展「はくとも写真展」を館職員も協力しながら友の会会員による展示を行い、友の会と連携して開催した事業も展開できた。	3		
	講座支援 (友の会→博物館)		講座支援4回 計5回				

(5) 情報発信

項目	評価指標		30年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①情報発信の充実	広報紙発行	年2回	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙「森の通信」を6月と9月の2回(64号・65号)発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布するとともに、ホームページにも掲載した。</li> <li>・博物館の情報を報道機関に提供する報道処理は64件で、目標を大きく下回った。</li> <li>・館内の広報推進会議で広報効果の検証等を行いながら、新たな広報手段に取り組み、情報発信に努めていく。</li> </ul>	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>①報道機関への情報提供において、目標を大きく下回ったのは残念である。情報発信は利用促進にとって重要な手段であるので、効果的な発信に努めていただきたい。</li> <li>②情報発信件数が、目標を下回ったことは、残念な結果であるが、原因を把握し、対策を講じて、今後に生かして欲しい。</li> <li>③総合博物館は、魅力ある観光施設でもあり、そのような視点で情報発信に取り組むことが大切である。観光協会のHPには、企画展、イベントなどの情報の掲載が可能なので、積極的な情報提供をお願いしたい。</li> <li>④夏休み前の児童・生徒対象のチラシ(もっと目立つもの)を作成して、「博物館講座」に、たくさんの方数を呼び込めないか…。内容が素晴らしいので、もったいないと思う。</li> <li>⑤様々な広報媒体を活用した情報発信に積極的に取り組んでおり、昨年度は目標値には達していないものの、近年で最も多い入館者になるなどの一定の成果に結びついた。特に、個人での入館者が増加しており、きめ細やかな情報発信を行った効果が表れている。今後は、評価指標の目標値を実績が下回った「報道処理」に力を入れ、一層の情報発信の充実を図って欲しい。</li> <li>⑥満足できます。</li> </ul>	2
	報道処理・情報提供件数	年120件	64件					
②ホームページの充実	更新回数	月5回	月26.9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館ホームページへのアクセスは、年720,028件となり、昨年度より4万件以上増え、目標値を達成できた。これは、更新回数が昨年度の2倍以上になったこと、さらにSNS(Facebook、ツイッター)において、特別展や講座の様子、季節ごとの情報などを発信でき、情報発信手段として定着してきたことが要因と思われる。</li> <li>・SNSではタイムリーで博物館の身近な話題提供などを積極的に行い、Facebookでは年間230件、ツイッターでは年間257件の投稿を行う事ができた。今後も効果的に活用していきたい。</li> </ul>	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ホームページの充実についてはアクセス数が大幅に目標値を上回っている。更新回数が増えたこと、画面が見やすく、努力のあとがうかがえる。</li> </ul>	
	アクセス件数	年500,000件	720,028件					

(6) 経営

項目	評価指標		30年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	2,584件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの収集件数については、強化週間の回数を増やし、回収に努めたことにより、目標値をクリアすることができた。また、本館サービスに対する満足度も85.4%となり、目標を達成できた。</li> <li>・今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に活かしていく。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>①来館者アンケートから、本館のサービスに対する満足度も目標を達成しており、努力がうかがえる。今後さらに、さまざまな年齢層のアンケート並びに回数を増やして、運営の改善に活かして欲しい。</li> <li>②アンケートの結果、満足度が85.5%であったことは、素晴らしいことである。</li> <li>③来館者へのアンケート調査については、利用者のニーズ把握をはじめ事業改善の貴重なデータとなるため、データの精度を高めるためにも、目標値を上方修正するなどし、回収件数の更なる増加に努めて欲しい。</li> <li>また、満足度に関する項目では、「満足していない」と回答した人の理由を聞くなど、要因分析ができるような質問項目の設定に工夫をして欲しい。</li> </ul>	
	満足度	70%	85.4%					
②職員の資質の向上	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本研修</li> <li>②県外研修等</li> <li>③展示解説員研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員を対象とした基本研修では、コンプライアンス、危機管理等について、4月、9月に実施するとともに、3月には学芸課職員による調査研究報告会を研修の機会とし、年3回実施した。県外研修として、関係職員が学芸員専門研修アドバンスコース、技術研修会等に参加した。</li> <li>・展示解説員の研修として、宮崎市・川南町・木城町の自然や史跡を見学するなど、各職員が様々なケースに適正に対応できるような環境づくりに努めた。</li> <li>・今後も引き続き館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努める。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>④専門的な知識を備えた学芸員であるので、一層研修を深めて欲しい。そのことが入館者の満足度につながっていく。</li> <li>⑤展示解説員を含めたすべての職員の魅力が、評価につながると思われるので、様々な機会を捉えて、職員の質の向上に努めていただきたい。</li> </ul>	3
③危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に全職員を対象とした危機管理マニュアルに関する研修及び放水訓練を実施、9月は「防災の日」に合わせ日向灘沖を震源とする震度5強の地震及び火災を想定した避難訓練を実施、1月は民家園において宮崎北消防署・消防団及び埋蔵文化財センター分館職員と合同で「文化財防災デー」に合わせた防火訓練を実施するなど、職員の危機管理意識やスキルの維持・向上を図った。</li> <li>・今後も、利用者の「安全」「安心」の確保のため、危機管理体制の強化に努める。</li> </ul>	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥地震を想定した避難訓練や防火訓練が行われており、評価したい。今後、文化財等資料に関する危機管理体制の強化をお願いしたい。</li> <li>⑦博物館は、人が大勢集まる場所でもあることから、職員の常在危機意識の向上を図る意味からも、避難訓練の実施は年1回ではなく、複数回実施することが望ましい。</li> </ul>	

(7) 全体を通じての意見

項目	評価指標		30年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
全体							<p>①令和を迎え、博物館本体の建て替えを検討されるべき時期にあるのではないかと。貴館は平成のリニューアルから20年余、建設からほぼ50年を経過し、老朽化した設備があちこちにみられ、資料の保存管理や展示にも支障が生じることを懸念している。県の財政は厳しいが、必要性を主張しないと建て替えは叶わないと予想されるので、提案しておきたい。</p> <p>②評価にあたり数値目標を掲げることに意義ある項目と、そうではない項目があると思う。また評価の業務に時間を費やし、本来の業務を妨げるような事態になってはいないか。評価活動はシンプルにされることを希望する。</p> <p>③入館者の利用団体を見ると、年々高齢者（施設等）が多くなっていると思う。転倒事故（段差）に十分気をつけて欲しい。</p> <p>④ときに、北郷町の山あいの集落に暮らす人びと、あるいは、深夜の国道10号線を行き来するトラックドライバーたちは博物館の存在を脳裏に思い浮かべることがあるだろうか、と考える。あらゆる人が来館の対象者だ、とするくらい、幅広く来館者を想定して運営していくことが肝要と考える。そういう点で、最近開かれた総博の高校野球展は層の広がりを意識した好企画だし、外部を巻き込んで続けられている西博の古代生活体験館の活動は万人向けの事業といえる。総博で始まった「どこでも博物館」事業も、博物館との距離を縮めてくれる。</p> <p>総博の常設展示会場で耳にした「あーおもしろかった！」「もっと見たい～」と家族に話しかける子どもたちの声が忘れられない。前年度の外部評価にもあったように、来館してもらえれば、こっちのもの。西博の展望ラウンジに立つだけで、「この空間が好きだ！」と思う。来館したくなる展示に知恵を絞り、情報発信に人手をさき、安心安全に心がけて、これからもいきいきとした空間をつくりだしていただきたい。</p>	